

研究主題

社会貢献の活動を通して人権尊重の精神を より一層高めるための指導の改善

《抄録》

本研究では、学校において実践されている社会貢献の活動に焦点をあて、この活動を人権教育の視点からとらえるとともに、人権教育を効果的に指導するための方策を追究することにした。

「人権尊重の精神の育成」と「社会貢献の精神の育成」はともに重要な教育課題であり、それらを関連付けて取り組むことは、学校において大切な教育活動につながるとの認識に立ち、ボランティア活動等の社会貢献の活動を人権教育として位置付けることが、人権教育の普及・発展につながるものであると考えた。

そこで、学習指導要領における社会貢献の活動の在り方を踏まえ、道徳、特別活動、総合的な学習の時間において、社会貢献の活動に関する授業を実践した結果、人権教育を効果的に指導するための方策を、次のようにとらえた。

- 1 「人権教育プログラム」に示されている人権教育の目標から、社会貢献の活動を人権教育として位置付ける視点を設定する。
- 2 指導計画の作成にあたり、具体的な人権教育の視点を設定する。
- 3 社会貢献の活動を位置付けた教科等の実施に際して、他教科等との関連を図る。
- 4 人権教育の視点による振り返りの活動を効果的に設定する。

これらの方策を踏まえ、道徳、特別活動、総合的な学習の時間に関する授業実践を行った。ここでは、代表的な実践事例としての総合的な学習の時間における高齢者との交流及びその成果を基にした道徳の時間と特別活動の指導事例を掲載した。

目 次

研究の背景	107
研究のねらい	107
研究の内容	107
1 「学習指導要領」及び「解説」における社会貢献の活動の位置付け	
2 人権教育を効果的に指導するための方策	
人権教育に関する実践・指導事例	110
1 実践事例 「地域の高齢者福祉施設との交流を通じた総合的な学習の時間の指導」 (小学校第5学年)	
2 指導事例1 「道徳の時間を効果的に生かした社会貢献の活動」(小学校第6学年)	
3 指導事例2 「長期間にわたって地域の施設と連携した指導」(小学校第4学年)	
研究のまとめ	120
1 研究の成果	
2 今後の課題	

研究の背景

近年、人権教育を取り巻く社会の動きはめまぐるしく変化し、学校における人権教育についても適切に推進していくことが求められている。また、東京都教育委員会では、教育目標を達成するための基本方針1に「『人権尊重の精神』と『社会貢献の精神』の育成」を掲げ、「人権尊重の理念を広く社会に定着させ、あらゆる偏見や差別をなくすため、「『人権教育のための国連10年』に関する国内行動計画」を踏まえるとともに、『東京都人権施策推進指針』等に基づき、人権教育を推進する」ことの必要性を述べている。

各学校では、人権尊重の精神の育成等にかかわる内容を学校の教育目標として教育課程に位置付けている。しかし、学校における人権教育の現状については、同和問題をはじめ様々な人権課題についての知的理解にとどまり、児童・生徒に人権感覚が十分身に付いていないなどの課題があることも指摘されている。

このようなことから、学校においては、人権尊重の精神をより一層高めるために、多様な機会をとらえ、人権教育を効果的に推進するための指導の方策が求められていると言える。

研究のねらい

児童・生徒の人権尊重の精神をより一層高めるために、学校において実践されている社会貢献の活動に焦点をあて、これを人権教育に位置付けた活動として推進するための指導の方策を提示する。

研究の内容

学校においては、「人権尊重の精神の育成」と「社会貢献の精神の育成」とともに重要な教育課題であり、両者を関連付けて取り組むことが必要である。

本研究では、社会貢献の活動を地域社会において他の人のために行われるすべての活動ととらえた。例えば、学校における地域清掃活動、高齢者福祉施設等でのボランティア活動等の体験活動も社会貢献の活動であり、人権教育として位置付けることができると考えた。

資料1 「小学校・中学校学習指導要領」及び「解説」における社会貢献の活動(一部掲載)

1 「学習指導要領」及び「解説」における社会貢献の活動の位置付け

「学習指導要領」やその「解説」に示されている社会貢献の活動に関連する記述は資料1に示すとおりである。

「総則」においては、道德教育を進めるに当たって、家庭や地域社会との連携を図りながら、ボランティア活動等を通して道德性の育成を図ることに配慮するよう示されている。

	小学校	中学校
総則	(道德教育を進めるに当たって) 家庭や地域社会との連携を図りながら、ボランティア活動や自然体験活動などの豊かな体験を通して児童(生徒)の内面に根ざした道德性の育成が図られるよう配慮しなければならない	
特別活動	(学校行事/勤労生産・奉仕的行事) 勤労の尊さや生産の喜びを体得するとともに、ボランティア活動など社会奉仕の精神を涵養する体験が得られるような活動を行う	(学級活動/個人及び社会の一員としての在り方、健康や安全に関すること) ボランティア活動の意義の理解 (生徒会活動) ボランティア活動を行う (学校行事/勤労生産・奉仕的行事) ボランティア活動など社会奉仕の精神を養う体験が得られるような活動を行う (生徒会活動)
学習指導要領解説	(学校行事/勤労生産・奉仕的行事) 飼育栽培活動、校内美化活動、地域社会の清掃活動、公共施設の清掃活動、福祉施設との交流活動	地域の福祉施設や社会教育施設等での様々なボランティア活動、幼児、高齢者、障害のある人々との交流 (学校行事/勤労生産・奉仕的行事) 地域社会への協力やボランティア活動
特別活動編	各学校においては、例えば福祉・健康などの横断的・総合的な課題などについて、学校の実態に応じた学習活動を行うものとする。	
総則 総合的な学習の時間の取扱い	総合的な学習の時間の学習活動を行うに当たっては、自然体験やボランティア活動などの社会体験を積極的に取り入れることに配慮するものとする	

る。また、特別活動及び総合的な学習の時間においても、社会奉仕の精神を涵養するための体験として社会貢献の活動が位置付けられている。

これらのことから、社会貢献の活動を通じた人権教育の指導について、道徳、特別活動、総合的な学習の時間を中心に、家庭や地域社会との連携を図りながら、授業実践を行うことにした。

2 人権教育を効果的に指導するための方策

(1) 社会貢献の活動

各学校で行われている社会貢献の活動のすべてが人権教育として意識され、実践されているわけではない。そこで、本研究では、各学校で行われている社会貢献の活動について、人権教育として位置付ける視点から見直し、人権教育として指導できるようにするための指導計画を作成することにした。

「人権教育として位置付ける視点」については、「人権教育プログラム」(東京都教育委員会 平成15年3月)に示されている人権教育の目標から、次の3点を設定した。

ア 自他を尊重する態度を育成できる活動であること

イ 偏見や差別の不合理性に気付かせることができる活動であること

ウ 同和問題をはじめ様々な人権課題について理解させることができる活動であること

これらア～ウのいずれかにあてはまるものを、人権教育として位置付けられる社会貢献の活動とした。

なお、この社会貢献の活動を各学校で効果的に指導するためには、地域社会や家庭との連携を図ることが必要である。例えば、地域社会との連携については、実際に活動を行う施設との共通理解を図ることや、地域の自治会や各組織に働きかけたり、協力を得たりすることなどが必要である。また、家庭との連携を図るためには、事前に活動のねらいについて説明し、保護者から児童・生徒への直接的な働きかけ等の支援を得ることなどが必要である。

(2) 人権教育の視点

人権教育として位置付けた社会貢献の活動の指導にあたり、児童・生徒が偏見や差別意識をもたないようにするため、指導計画の作成に際して、より具体的な人権教育の視点の設定と指導の工夫が求められる。

そこで、より具体的な人権教育の視点として、次のア～オを設定した。

ア 偏見や差別への気付き

イ 様々な人権課題の理解

ウ 相手の立場に立って考える態度

エ 自己実現への意識

オ 人間に対する愛情や信頼感

さらに、実際の指導に当たっては、次のような指導の工夫を行った。

- ・ 相手の立場に立って考える活動を支える指導計画の作成
- ・ 児童・生徒の多様な気付きをもたらす学習カードの活用
- ・ 人権感覚を高めるための教師の適切な助言
- ・ 児童・生徒の活動を支える保護者への働きかけ

(3) 関連的な指導

人権教育を効果的に指導するためには、児童・生徒が自らの活動を人権教育の視点から見直す機会を設定することが重要である。そこで、教科等との関連を図った指導計画の作成により、児童・生徒が体験活動として行った社会貢献の活動を、様々な角度から見直し、振り返ることができるようにした。指導計画を作成する際には、関連する教科等の実施時期を連続させたり、同じ時期に指導したりする関連的な指導も重要となる。

また、関連を図るすべての教科等の目標に人権教育の視点を取り入れることが必要である。言い換えれば、授業実践で実際に社会貢献の活動を位置付けた特別活動や総合的な学習の時間のねらいはもとより、関連的な指導を行う他の教科等のねらいについても、人権教育の視点を踏まえたものにするということである。

(4) 振り返りの活動

これまでの人権教育については、人権課題についての知的理解にとどまり、児童・生徒に人権感覚が十分に身に付いていないなどの課題が指摘されている。そこで、人権教育を効果的に指導するために、指導計画に、児童・生徒が自らの心の変容について十分に振り返る機会と場を設定することが必要があると考えた。

この振り返りの活動は、前述した人権教育の視点ア～オを基にして行い、児童・生徒に人権感覚をより一層身に付けさせることを意図して行うものである。

なお、振り返りの活動を行う場合には以下の2点に配慮することが大切である。

心の変容について振り返る。

児童・生徒が実際に社会貢献の活動を行った場合、活動したことだけを振り返るのではなくて、児童・生徒が自らの心の変容に気付くように、教師が様々な手だてを工夫する必要がある。

振り返りの活動の内容を学級等で共有する。

それぞれの児童・生徒が振り返った内容について、教師が適切に意義付けや価値付けを行い、学級全員で共有することが大切である。このような振り返りの活動により、自分が気付かなかったことについて、他の児童・生徒が気付いたことを基に、発見したり、深めたりすることができ、多くの児童・生徒に、より効果的に人権尊重の精神を高めることができると考えた。

以上の方策を踏まえ、次の章では、総合的な学習の時間を中心に、社会貢献の活動を人権教育に位置付けた実践事例及び道徳、特別活動を中核とした指導事例を提示する。

人権教育に関する実践・指導事例

1 実践事例 「地域の高齢者福祉施設との交流を通じた総合的な学習の時間の指導」(小学校第5学年)

(1) 単元名

共に生きる できることから始めよう

(2) 単元の目標

デイサービスセンターの高齢者との触れ合いを通して、高齢者に対する理解を深める。

自ら進んで高齢者とかかわり、共に楽しむことを考え、主体的に実践しようとする態度を育てる。

高齢者に対する思いやりや共に生きていこうとする心をはぐくみ、人権尊重の精神を高める。

(3) 人権教育を効果的に指導するための方策

人権教育としての社会貢献の活動

地域にあるデイサービスセンターの高齢者との交流活動は、人権教育として位置付ける視点の「ア 自他を尊重する態度を育成できる活動」であり、社会貢献の活動に位置付けることができる。

人権教育の視点に基づいた指導の工夫

相手の立場に立って考える活動を支える支援計画の作成

相手の立場に立った視点からの項目を設けた個別支援表を作成する。

学習カードの工夫

「相手の立場に立って考える」という人権教育の視点から、学習カードには「心を配ること」を必ず記入させるようにする。

人権感覚を高めるための教師の適切な助言

人権教育の視点から、多様な場で個に応じた指導をし、人権感覚を高める。

施設のスタッフとの交流

施設のスタッフとの交流により、高齢者への理解を深めていく。

保護者への働きかけ

人権教育に関する保護者の理解と協力を得るために、人権教育のねらいや働きかけについて説明し、学年便りや保護者会で説明し、家庭との連携を図る。

人権教育を推進する関連的な指導

本単元の目標と関連する道徳「ボランティアクラブに入って(勤労・奉仕)」の目標に人権教育の視点を位置付け、関連的な指導の計画を作成した。また、振り返りの活動の学習内容と関連させて、国語科「交流した高齢者の方にお礼の手紙を書こう」を指導する。

振り返りの活動の効果的な展開

心の変容について振り返らせるために、学習カードに振り返る項目として「心を配ること」を記入させる。また、児童が同じ人と継続した交流活動が行えるように、施設と連携を図り、実践にあたる。振り返りの活動の内容を学級で共有し、振り返りの活動の充実を図る。

(4) 指導計画 (総合的な学習の時間 14時間)

	主 な 学 習 活 動	人 権 教 育 の 視 点
見 つ れ け る (1)	<p>できることを考えよう</p> <p>デイサービスセンターの高齢者に手紙を書こう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域のためにできることを考える。 ・ 自己紹介の手紙を書く。 ・ 遊びに行きたいことも伝える。 	<p>1学期の総合的な学習の時間を振り返り、地域のために自分ができることを考えるように助言する。</p> <p>敬老の日の前に高齢者に届けることを確認するとともに自分のことを分かりやすく知らせる手紙を書くように助言する。</p>
見 通 す (1)	<p>デイサービスセンターで過ごす高齢者の様子を聞き、交流に向けての見通しを立てよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者と共に楽しむ交流会や学習のまとめをどのように行っていくかを考え、学習カードに記入する。 	<p>デイサービスセンターの施設長との事前の打ち合わせを十分に行う。</p> <p>高齢者の様子やかかわるときに気を付けることなどについて、メモをとりながら聞くように助言する。</p>
追 究 す る (8)	<p>第1回交流活動の準備をしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者と仲良くなるためにどんなことをしたいかを考える。 (自己紹介・名札作成等) ・ 高齢者に対して心を配ることを考える。 <p>第1回交流活動をしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> (高齢者と仲良くなるよう) ・ 高齢者が好きな合唱のプレゼント ・ 自己紹介 ・ 語り合う等 ・ 高齢者に対して心を配ることを考える。 <p>第2回交流活動の準備をしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者と共に楽しめる遊びを考える。 ・ 高齢者に対して心を配ることを考える。 <p>第2回交流活動をしよう(遊びの会をしよう)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ しりとり ・ 手遊び ・ カルタ ・ お手玉 ・ 百人一首 ・ トランプ等 ・ 高齢者に対して、心を配ることを考える。 <p>第3回交流活動の準備をしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 心に残る交流会になるように、交流の内容を工夫する。 ・ 高齢者に対して心を配ることを考える。 <p>第3回交流活動をしよう(仲良し会を開こう)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 合唱 ・ 合奏 ・ 調べたことの発表 ・ 手遊び ・ ぬり絵 ・ プレゼント ・ 語り合う等 ・ 高齢者に対して心を配ることを考える。 	<p><準備の時の支援></p> <p>学習カードには、相手を思いやり、共に生きていこうとする態度を養うために、心を配ることを記入させる。</p> <p><交流会の時の支援></p> <p>楽しく交流できるようにデイサービスセンターのルールを守らせる。</p> <p>交流会では、高齢者の様子を見ながら計画を適宜修正していくようにする。</p> <p>前半待機する児童は、高齢者とスタッフ、高齢者と友達のかかわりのよさ等、気付いたことを学習カードに記入させる。</p> <p><交流会後の振り返り時の支援></p> <p>毎回心を配ること等の振り返りをさせる。また、高齢者に対する尊敬や思いやりの気持ちが表れているものについては学級全体に紹介する。</p> <p>心に残った言葉や事柄を簡潔な言葉で表し、新聞等でのまとめに役立たせる。</p> <p>保護者の感想から、思いや願いをつかみ、それを受け止めた振り返りをさせる。</p> <p>第3回の交流会は、高齢者の知恵や特技に触れたことへの尊敬や感謝の気持ち、また、高齢者を思いやる気持ちが表れる交流会にする。</p>
ま 伝 え め る (3)	<p>高齢者との交流を通して、考えたことや学んだことを自分なりの表現で、まとめよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 交流を通して考えたことや感じたことを基にして、新聞や巻物等にまとめる。 	<p>学習カードにメモしてきたことを基に、交流の楽しさや高齢者との触れ合い方、共に生きていこうとする気持ち等を保護者に分かるように具体的に書くよう助言する。</p> <p>交流後に、書き留めてきた簡潔な言葉を見出しとして使うとよいことを話す。</p>
振 生 り か 返 す (1)	<p>高齢者との交流を通して、考えたことや学んだことを伝え合おう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 友達の作品を読んで、自分の思いとの共通点と友達の考えや学びのよさを学習カードに書く。 ・ 考えたことや学んだことを発表し合う。 	<p>自分の思いとの共通点であるのか、友達からの学びであるのかを明確にしてから発表する。</p>

(5) 指導の実際

人権教育として位置付けた社会貢献の活動

デイサービスセンターとの綿密な連絡

交流中はもとより、事前・事後において、高齢者福祉施設との打ち合わせの場を設け、施設の期待等を聞くと同時に、学校の指導の意図と内容を的確に伝え、児童にとっても高齢者にとっても心の通い合う交流になるように配慮した。

交流に際しては、児童の考えた交流内容を事前に施設に連絡した。これら施設との連携は、児童と高齢者との交流をデイサービスセンターのスタッフが見守り、教師が指導していくために有効であった。また、電話やファクシミリ、電子メール等の活用により、効率のよい打ち合わせができた。交流後の情報交換では、交流活動における教師とスタッフの反省とともに、デイサービスセンターからの帰り道やその後の教室等での児童のつぶやき、学習カードに書かれた振り返りの様子、その後の高齢者の様子等を相互に伝え合うことができた。これらの連携により、交流活動のねらいを達成するための児童への支援に役立てることができた。

資料2 つぶやきに見られる児童の気付き

<児童のつぶやき>
 「Aさんに、鈴虫の鳴き声を聞かせてあげたいな。スタッフの人に伺い、許可が出たら、持っていこう。」
 <児童の気付き>
 聞かせたいという願いと同時に、施設に対する配慮が見られる。「相手の立場に立って考える」という具体的な指導の姿である。

人権教育としての指導の工夫

人権教育の視点に基づく教師の適切な助言

学習カードに書かれている言葉や文章の中で、人権とかかわる内容が見られる場合は、教師がコメントを書いたり児童と対話したりすることを通して、人権感覚が身に付くように指導した。

資料3 教師のコメントを通じた評価

.....高齢者でも、着物や工作、手芸等、素晴らしい作品を作られているので驚きました。.....
 <教師のコメントとその意図>
 「が、でしょうか?」と、コメントを書くとともに、児童がどういう思いでこのように表現したのかを尋ね、思い込みや偏見に気付くよう対話する。

資料4 学習カードにおける児童の記述及び教師のコメントとその意図

<心を配ること>
 ・高齢者が喜んでくれる会になるように、ぬり絵を手作りし、ぬり絵をする。
 <教師のコメントとその意図>
 「Bさんの願いがかなうといいです。自分も、一緒に楽しもうという気持ちで交流会にのぞむと、よい交流ができますね。共に楽しみましょう。」と、コメントを書くとともに、交流会中の様子から共に楽しむ姿を賞賛する。相手の喜びは自分の喜びでもあること、自分の喜びは相手の喜びでもあることをさりげなく気付かせるようにする。

<感想>
 ・デイサービスセンターのスタッフの人が、私がゲームの説明をしているときに、耳の不自由なCさんに大きな声で説明していることが素晴らしいと思いました。
 <教師のコメントとその意図>
 「説明をしながら、よいことに気がきました。人それぞれに違いがありますね。一緒にゲームを楽しむためには、ルールを理解することが必要です。そのために、スタッフの人は、Cさんが分かりやすいように声を掛けていたのですね。」と、コメントする。
 次の交流時にはどのようにゲームの説明等をするかを尋ね、本時の気付きを次に生かすように促す。

3回の交流活動の意図

交流活動は、一度だけではなく、3回行うように設定した。3回の交流の内容は、高齢者と仲良くなるという目的意識をもって決めるよう支援するとともに、各回の交流のねらいを明確にした。第1回は、相互に理解することを目的とし、自分のことをよく分かってもらえるような自己紹介や相手のことを尋ね理解する活動とした。第2回は、相互理解を深めることを目的とし、遊びを教わったり教えたりする活動を通して、楽しみ仲良くなる活動とした。第3回は、仲良し会を開き、さらに相互理解を深めることを目的とした。発表会とグループ活動を通して触れ合ってきた高齢者と最後の交流を楽しみ、さらに仲良くなる活動とした。交流活動では、「交流の計画をしっかり立てる めあてをもった交流をする 交流についてめあてにそって振り返る」といった一連の過程を繰り返し行い、具体的なめあてをもち、行動につなげるようにした。

学習カードの工夫と保護者への働きかけ

学習カードは、思考の流れが分かるように形式を工夫した。そこに、保護者からの言葉や印象に残っている事柄等を自由に書き込めるようにした。保護者には、共に児童を育てていくことの大切さとともに、交流の意義やねらいについて、学年便りや保護者会で連絡・説明した。また、保護者の感想や願い等を学習カードに記入することを依頼した。

資料5 学習カードにおける児童の変容

交流会準備において、児童が高齢者を念頭に置きながら「心を配ることを考え、交流会に臨むように指導した。児童はこのことを繰り返すことにより、交流活動での高齢者やスタッフの心配りに気付いた。そして、人とかがかわるときに心を配ることの大切さを学んだ。また、それが自分と高齢者との距離を縮めることを実感した。交流活動の第1回よりも第2回、第3回になるにつれ、児童は「スタッフの人のようにはっきりとゆっくり話す」「聴覚に障害のある人がいたので、しりとりをする時に紙に書いて行う」等、相手や場に応じた言動が見られるようになった。

資料7 学習カードにおける児童の記述

交流の準備と同時に、「心を配ることを考えた。「歩く時は、ゆっくりと歩く。話す時は、分かりやすくていねいに話す。」等が浮かび上がった。第1回より第2回、第3回の方が、すぐに考えられた。それは、高齢者の方々と触れ合っただけで気持ちが分かったからだろう。

資料6 児童が記入した学習カード

備	第2回交流活動	第3回交流準備	第3回交流活動
時間を過る。	<めあて> 楽しくゲームをして、ぼくたちも高齢者も楽しくなる交流会にする。	<めあて> 心に残る交流会になるように、よい意見を出す。	<めあて> 最後の交流会なので、心に残る交流にする。
なかった	十分達成できた 達成できた あまり達成できなかった 達成できなかった	十分達成できた 達成できた あまり達成できなかった 達成できなかった	十分達成できた 達成できた あまり達成できなかった 達成できなかった
	歌を歌った時、今日も涙を流している方がいらした。しかも、前回と同じ方が涙を流しており、心を打たれた。高齢者とともに楽しむという、ぼくたちの気持ちが伝わったのかと思うと、うれしくなった。	<グループの遊び> ・しりとり ・トランプ <プレゼント> ・思い出に残る自己紹介 <尋ねること> ・私たちに望んでいること	プレゼントを渡したときに、Dさんたちがとても喜んでくれた。そして、みんなが笑ってくれていたことがうれしかった。
>を考えた。	今日のグループの遊びをした時、Dさんたちが笑ってくれた。一緒に笑いながらやった遊びは、いつもより2倍も3倍も楽しかった。	<心を配ること> ・高齢者の方々によく分かるように、はっきりとていねいな言葉で話す。 ・高齢者の方々が笑ってくれるように、楽しい話題を心がける。	望んでいることは、家族を大切に一生懸命に勉強してほしいだった。頑張って勉強しよう。
	交流会では、まだ、はきはき話していないのではっきりと話すように頑張る。	<伝えたいこと> 次はみんなと一緒に行く最後の交流会なのでプレゼントを心を込めて一生懸命に作ったこと	最後にグッディ・グッバイを歌ったとき、これで交流会が終わったと思ったら、涙が出てきた。
頭においた。グループ、うまく	<発見したこと> ・スタッフが、はっきり話している。 ・Eさんがここに顔だった。	<感想> 高齢者の方々にとっても、自分にとってもいい思い出になると思う。頑張りたい。	<感想> ぼくは交流会を通して、高齢者の方々のうれしい気持ちや楽しい気持ちが分かるようになった。この学習をもとに多くの高齢者の方々と知り合いになりたい。

資料8 学習カードに記載された保護者のコメント

高齢者の方々と交流は、とてもいい経験でしたね。みんなが一生懸命に歌ったり接したりしたから、心が通じたのだと思います。相手の立場に立って、考えたり接したりすることは難しいけれども、素直な気持ちで話したり少し気を配って行動したりすれば、人はみんな分かり合えます。私もこのような施設で、ボランティア活動をしたことがあります。最後に涙を流し感謝された時、一緒に泣いてしまいました。皆も今回の交流のことを忘れずに、高齢者の方々と大切に思う気持ちをいつまでももち続けてほしいと思います。

資料9 個別支援表

名前	他者を尊敬・尊重する態度	高齢者のために行動する力	その他
Fさん	高齢者が歌に合わせて、手拍子。感動の涙。大きな声で一息懸命歌おう。	スタッフの人が、高齢者の耳元で話す。自分も耳元で。	スタッフの人のとっさの判断
Gさん	Cさんが分かりやすく質問に応じてくれた。 「プレゼントを大切にします。」の言葉(とてもうれしい) スタッフの人がどの人にも優しく丁寧に話す。高齢者に心を配っているところがいい。	合唱(感動の涙 心に響きうれしい) ぬり絵を高齢者の方と二人で進めていったことがよい。 自分のおばあちゃんにも心を配り、気遣いをする。	みんな人間 みんな心が通じ合える

振り返りの活動

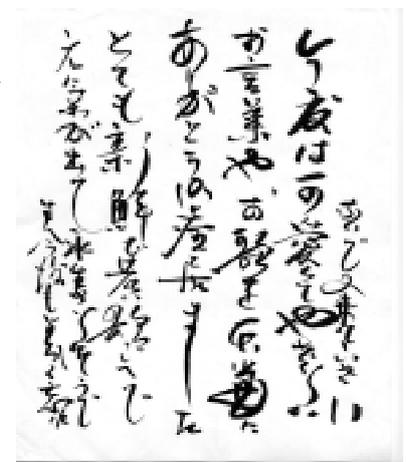
交流活動時の高齢者の姿からの振り返り

筆をなめらかに動かして書いているHさんの姿を、児童はじっと見つめていた。そして、「私もこんなふうには書けるようになりたい。練習する。」とつぶやいた。自分の生き方につながる場面であった。

個別支援表の作成

個別支援表を作成し、人権教育の視点から「他者を尊敬・尊重する態度」と「高齢者のために行動する力」を位置付け、児童の活動の様子を整理した。この表を基に、児童一人一人のよさをとらえるとともに児童の実際の行動につながるような支援を行うことができた。

資料10 Hさんからの手紙



新聞作りの活動による振り返り

交流活動を通して学んだことや考えたことについて、学習カードを基に、新聞などの自分が決めた表現方法でまとめた。第一回の交流活動でいただいた句が児童の心を打った。そして、高齢者の句をまねた。児童の作った句に自他を尊重する態度が表れていた。

資料12 児童が作った句

プレゼント
心が通じて
みな笑顔

資料11 児童が制作した新聞

ここに

いつも、笑顔もあふれている方々もすばらしいなと思えました。私たちが、デイホームに何うのでうれいと思つてくたさうているのか、もしも私たちが、顔をみられない方は一人もいらつしやいませんでした。

笑顔が最高な日がありました。プレゼントをお渡しした。プレゼントをお渡しした。

笑顔で最高な日がありました。プレゼントをお渡しした。

笑顔で最高な日がありました。プレゼントをお渡しした。

望み

Cさんの望みは、お手玉、ペーゴマをすることです。昔のように遊びたいといふことだと思ひます。他の方は、歌ってほしいそうです。少し気持ちが分かるような気がします。

共に生きる

三回の交流でスタッフの人が工夫しているところをいくつか見つけました。一つは、高齢者が腰掛ける時にいすを動かすこと、もう一つは、耳が不自由な人には伝わるように繰り返し話すことです。

スタッフの方々

相手の立場に立つて、大変なことは手助けするのだと思ひました。毎年私はいまの家にいます。その時には、スタッフの方々のように工夫していきます。

手紙・俳句

地域の俳句の会の皆様より
私たちが初めて交流に行った日に、その場で句を作り読んでくださいました。それを紹介しませう。

子ども来て 平均の年 下りけり
子どもらに 引かれて声張る 老の声
小学生の 訪れうれし デイホーム
子どもらに 若さをもらい 老うれし
子どもらと 唱歌に夢の 浮かひけり

学び・考えたこと

私が学んだ最大のことは、ここには欠かせないものということ。そして、感心したことはスタッフの人の工夫です。この交流会を通じて、いろいろな高齢者と友達になることができました。そして、どんな年が違つても話を通じて知り合い、友達になれることが分かりました。また、知り合いでなかった高齢者との交流を通して、相手の気持ちを考えて思ひやりの気持ちをもち、これからは、誰に対しても心配りをして生活していきます。

振り返りの活動として、児童は新聞等にまとめた作品を読み合い、感想を述べ合った。相手の状況に配慮した活動をしたという友達の報告を聞いて、自分もそのようにしたいと思うと述べるなど、感じたことを行動につなげようとする姿が表れてきた。

<めあて>

友達のよいところを作品からたくさん見付ける。また、友達の発表を自分と比較しながら聞き、自分に生かす。

<交流を通して、学んだこと>

今日の学習は、みんないい意見をたくさん出していました。色々な話を聞いていると、その場に応じた判断でいい結果を出していた話がありました。これからはぼくも、かかわっている人が望んでいることを、とっさの判断で行えるようにしようと思います。

学級全体で共有する振り返り

振り返りの活動では、友達のよさを学習カードに記入したり、発表したりするよう助言した。また、気付いたよさは直接該当児童に伝え、学び合う姿勢や認め合う雰囲気を見出し出すようにした。

交流活動では、同じ人と繰り返し交流するように施設と連携したことにより、児童は一人の高齢者の思いやりの心に気付き、自らを振り返っていた。同じ人と交流することにより、自他を尊重する態度を深めることができた。

関連的な指導

本単元「共に生きる できることから始めよう」に取り組む前に、地域のために活動している人を取り上げた道徳「ボランティアクラブに入って」を指導した。この授業では、勤労・奉仕について、児童は自分たちも高齢者のために何かできることがあるのではないかと考えるなど、社会貢献の活動に対する意欲を喚起することができた。

また、本単元がすべて終わった後に、国語科「交流した高齢者の方にお礼の手紙を書こう」を取り上げた。この授業を通して、児童は学習カードにおける心を配ることの記述を基にして手紙を書いたり、交流の中で高齢者に褒めてもらったことなどへの感謝の気持ちを書いたりするなど、関連的な指導を行うことによって、高齢者への理解が一層深まった。

資料13 学習カード

名前	自分の思いとの共通点	素晴らしい考え・学び
Iさん	うれしかったこと「みんなの心～メッセージ～デイホームに届く」を小見出しに入れているのがよい。 高齢者を「高齢者の方々」と記入した方がもっといいと思う。	手作り風船の遊びでとても仲良くなったということから、ちょっとした触れ合いをしていくと仲良くなれると思った。
	<友達の発表を聞いて、気付いたことをメモしよう> 高齢者の方々と仲良くなれたのは、心を配ることができたからだった。 スタッフ 耳のそばで話す。高齢者の方々は、笑顔になった。	

高齢者の方に何回も、「どこに住んでいるのですか。」と尋ねられたときに、「Jさんは、〇〇に住んでいます。」とやさしい声で答えていたのがいいなと思いました。聞いていて気持ちよかったです。

資料14 学び合いの学習カード例

みんなでしりとり遊びをしようと思ったときに、Kさんが紙に言葉を書いて見やすいところに置いていました。耳の不自由なLさんのことをしっかりと考えると、そういうこともできるのだと思いました。私はこれからは、もっと相手の立場に立って深く考え、行動していきたいと思いました。Kさんは、本当に素晴らしいと思いました。

Eさんは、素晴らしい人だと思いました。デイホームのMさんが泣いてしまったとき、はじめは何もできなかったけれども、第2回の交流では涙をふくためのティッシュを手渡すことができたからです。私だったらとまどってしまって、そういうとっさの判断はできないと思いました。私は、Nさんには思いやりの心があるから、こういうことができたのだと思いました。私も思いやりの心を忘れずに生活していきたいと思いました。

2 指導事例1 「道徳の時間を効果的に生かした社会貢献の活動」(小学校第6学年)

(1) 中心となる教科等・主題名

道徳 2 - (5) 尊敬・感謝

(2) 単元の目標

多くの人々の支えによって、日々の生活が成り立ち、そのなかで自らが生きていることに気付く。

多くの人々の支えに感謝し、自分には何ができるかを考え、実践していこうとする態度を養う。

(3) 人権教育を効果的に指導するための方策

社会貢献の活動

道徳との関連的な指導を行った総合的な学習の時間では、人権教育として位置付ける視点の「ア 自他を尊重する態度を育成する活動」に焦点をあて、地域に住む高齢者との交流及び地域清掃活動を人権教育として位置付けた社会貢献の活動として設定する。

人権教育の視点

相手の立場に立って考える態度 (人権教育の視点 ウ)

自己実現への意識 (人権教育の視点 エ)

人間に対する愛情や信頼感 (人権教育の視点 オ)

関連的な指導

道徳の時間の指導で期待される意識の変容を総合的な学習の時間に生かすため、道徳と総合的な学習の時間を関連させて指導する。総合的な学習の時間の活動と並行して、道徳の時間の指導を行い、道徳で期待される社会貢献の活動に対する実践意欲を総合的な学習の時間に生かすようにする。

振り返りの活動

振り返りの活動の内容を学級で共有する

道徳の時間においては、総合的な学習の時間での社会貢献の活動を踏まえながら、資料を通して相手の立場に立って考える態度について考えるとともに、社会貢献の活動についての振り返りの活動の内容を共有することにより、道徳的価値を身に付けていく。このことにより、実践意欲が高まり、社会貢献の活動もより質の高いものになっていく。

心の変容について振り返る

高齢者とのかかわりを通して、学習カードや作文等で、自己の高齢者に対する意識を振り返り、心の変容を振り返ることにより、自他を尊重する態度が育成される。

資料15 振り返りの活動における児童の学習シート等記入内容例、教師のコメント例、教師の願い

	児童の学習活動での記述	教師のコメント例	教師の願い
総合的な学習の時間	<ul style="list-style-type: none"> 一緒に将棋をしました。いろいろな手を知っていますすごいなと思いました。 私が、「お元気ですか」と声をかけると、とてもうれしそうに返事をしてくださいました。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分が知らないことをたくさん知っていますね。 自分から声をかけるということは素晴らしいことです。 	<ul style="list-style-type: none"> 一人の人間を大切にすることが人権を尊重できる社会の構築への第一歩であることに気付かせたい。
道徳	<ul style="list-style-type: none"> 今までの社会を支えてきてくれた高齢者の方に感謝の気持ちをもつ大切さを学びました。 長年、苦労しながら生きてきた様子を聞いて、とても感動しました。 何事にも、自分だけではなく、他の人のことも考えて生きていきたいと思っています。 	<ul style="list-style-type: none"> これからも高齢者の方から多くのことを学んでいきたいですね。 生きてきた年数が違うと、やはり多くのことを経験されていますね。 その気持ちを忘れずに、自分には何ができるのかを考えていこう。 	<ul style="list-style-type: none"> 相手を尊敬し感謝することの素晴らしさを実感させたい。 自分にもできることがあるということに気付かせたい。
総合的な学習の時間	<ul style="list-style-type: none"> Oさんと意見が違ふときがあったけれども、Oさんのよさも考えながら活動できました。 手遊び歌を教えてくださいましたPさんと出会えたことが、本当にうれしいです。 	<ul style="list-style-type: none"> 話し合っって物事を解決することは難しいけれども、大切なことです。 グループで考えた真心からの手遊び歌も喜んでいただけましたね。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分ができることに自信をもって取り組むことが人権を尊重することにつながるということに気付かせ、更なる実践へとつなげたい。

(4) 指導計画 (道徳 1 時間、 総合的な学習の時間 1 8 時間)

教科時	主 な 学 習 活 動	人権教育の視点に基づいた留意点 (〔 〕内は、人権教育の視点)
総合的な学習の時間 (5)	<p>高齢者の会合に参加する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域社会に生きる高齢者のことを理解するために参加する。 <p>高齢者と地域清掃活動をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者と共に地域の公園の清掃を行う。 <p>地域清掃活動について振り返り、今後の活動について考える。 学習カード</p>	<p>高齢者のもつ知識や知恵、技術などの素晴らしさについて気付かせる。〔オ〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会合への参加にあたって、注意すべきことを事前に指導する。 ・高齢者の方々の親睦会の責任者と打ち合わせを十分に行う。 <p>高齢者の気持ちを考えながら活動させる。〔リ〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親睦会との事前の打ち合わせを十分に行う。 <p>振り返りの活動として、学習カードに心の動きを記入させる。</p>
道徳 (1)	<p>導入 地域清掃活動や交流でかかわった高齢者からの感想を聞く。</p> <p>展開 教師による資料の朗読を聞き、話し合う。 これからの自分自身の生き方を考える。 ワークシート</p> <p>これからあなたはどのように生きていこうと思いますか。</p> <p>終末 地域の人の話を聞く。</p>	<p>高齢者の感想からこれまでの活動を想起させ、資料への導入を行う。</p> <p>資料を通して、高齢者の立場や思いを考えさせる。〔リ〕</p> <p>高齢者への尊敬の念や感謝の気持ちについて話し合える時間を十分に確保する。</p> <p>これから、高齢者をはじめ様々な人々に自分がどのようにかかわっていくかについて、今までの活動や道徳の資料を通した話し合いから考えさせる。〔オ〕</p> <p>一人一人の意識を把握し、充実した話し合いを進めるようにする。〔リ〕</p> <p>一人一人の意見を十分に尊重する。〔リ〕</p> <p>清掃活動で協力を依頼した方をゲストティーチャーとして招く。</p>
総合的な学習の時間 (13)	<p>今までの学習を振り返り、自分たちがやってみた高齢者との交流を考える。 学習カード</p> <p>課題別グループで活動する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昔話のリサーチグループ ・楽しい話題と手遊び歌グループ ・手紙・小物プレゼントグループ等 <p>高齢者とのかかわりを振り返り、高齢者に対する作文を書く。尊敬や感謝の気持ちを深める。 作文</p> <p>一人一人の意識に沿って、これから高齢者とのようにかかわっていけばよいかを話し合う。</p> <p>話し合いを基にして、高齢者とかわる自分の計画を立てる。</p>	<p>道徳の時間で培った実践意欲を総合的な学習の時間に生かすようにさせる。</p> <p>どんな活動が自分にでき、また高齢者にとってどんなことが必要なのかを考えさせる。</p> <p>高齢者の立場を考えさせ、相手が本当に喜ぶことが何かということを中心に話し合わせる。〔リ〕</p> <p>自ら主体的に活動させ、友達と協力させる。〔オ〕</p> <p>相手が喜ぶことが、自分の喜びになるということに気付くようにする。</p> <p>高齢者との交流を通して学んだことを伝え合い、高齢者を大切に、すべての人が共に支え合い生きていくようにさせる。〔イ〕</p> <p>保護者への働きかけを行い、児童の計画を生活のなかで生かせるように依頼する。</p> <p>自分の立てた計画の実施により、自己実現を図るよう支援する。〔オ〕</p>

3 指導事例2 「長期間にわたって地域の施設と連携した指導」(小学校第4学年)

(1) 中心となる教科等・単元名

特別活動 「みんなが喜ぶ祭りの店にしよう」

(2) 単元の目標

学級集団としての具体的な活動の中で、相手の立場になって自分たちにできることは何かを考え、話し合い、自主的・実践的な態度をはぐくむことができる。

高齢者や障害のある人とかかわりあうなかで、偏見や差別のない社会の実現に向けて、よりよい生活を築こうとすることができる。

(3) 人権教育を効果的に指導するための方策

社会貢献の活動

地域の高齢者福祉施設や養護学校と連携を図り、高齢者や養護学校の友達との交流を人権教育としての社会貢献の活動と位置付け、総合的な学習の時間で実践した。この活動は、高齢者や障害者について理解できる活動であることから人権教育として位置付けた。

人権教育の視点

偏見や差別への気付き (人権教育の視点 ア)

様々な人権課題の理解 (人権教育の視点 イ)

相手の立場に立って考える態度 (人権教育の視点 ウ)

人間に対する愛情や信頼感 (人権教育の視点 オ)

関連的な指導

総合的な学習の時間「自分たちにできることをみつけよう(高齢者福祉施設との交流)」において、児童一人一人が高齢者のためにできることを考える。さらに、総合的な学習の時間での学習の発展として、友達と協力して活動する学級活動及び学校行事を通して、自らの活動について振り返る。

振り返りの活動

高齢者福祉施設との交流活動の際には、施設の協力のもと、児童が同じ人とかかわり、継続的な振り返りの活動を行うようにする。そのことで、児童と高齢者の間に人間関係が構築され、児童は高齢者を一般的にとらえるのではなく、個人としてとらえるようになる。

また、本事例の実践中だけでなく、日常の教育活動においても振り返りの活動を行う。

資料16 振り返りの活動における児童の学習シート等記入内容例、教師のコメント例、教師の願い

	児童の学習活動での記述	教師のコメント例	教師の願い
総合的な学習の時間	<ul style="list-style-type: none"> Qさんは感動して泣いていました。高齢者の方々は私たちのしたことをとても喜んでくれました。 友達のRさんが、話を聞き取りづらそうにしていたQさんのそばで一言一言はつきり話していました。今度は私もそうできるようになりたいと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達と協力して一生懸命やったかいがありましたね。 相手の立場で考え行動することができて素晴らしいですね。今度は自分から進んで行動してください。 	<ul style="list-style-type: none"> 人のために行う活動が相手を喜ばせることにつながることを実感させたい。 話し合いの中で友達のよさから学ばせたい。
学級活動	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちの店に来てくれるお客さんに喜んでもらえるように、分かりやすく説明したり、分からない時はやってみせたりしたい。 車いすで来る人には、入り口の段差で手伝ったり、目の不自由な人には、点字で店の説明を用意したりして、その人に合った対応をしていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちが一生懸命になって作った店にたくさんの方が来てくれるように工夫していきましょう。 一人一人を大切に、お客さんが「祭りに来てよかった」と思える店になるといいですね。 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者との交流を生かして相手の立場を考えさせたい。 自分にできることを考え、実践する力を身に付けさせたい。
学校行事	<ul style="list-style-type: none"> 養護学校のSさんが店に来てくれた。自分が親切にしたことを「ありがとう」と言って、感謝されたことは、本当にうれしかった。 デイサービスセンターのSさんに自分から話しかけて、絵地図を使って店の案内をすることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> Sさんはとても喜んでいましたね。人のうれしそうな顔を見て、「よかった」と感激したことでしょう。 困っている人に、自分から進んでいねいな言葉で説明できたね。これからもいろいろな人に親切にしよう。 	<ul style="list-style-type: none"> 人の喜びは自分の喜びでもあることを実感させたい。 人の役に立てるうれしさを感じとってほしい。

(4) 指導計画 (総合的な学習の時間 20時間、 学級活動 1時間、 学校行事 1時間)

教科等	主な学習活動	人権教育の視点に基づいた留意点(イ内は人権教育の視点)
総合的な学習の時間 (20)	<p>高齢者福祉施設との交流について知る。 ・交流について見通しをもつ。 高齢者福祉施設を訪問する。 ・訪問グループをつくり、自分たちにできそうなことを考え、計画を立て、訪問する。 交流会ですることを話し合い、課題を決め、係分担し、準備をする。</p> <p>〔楽しい交流会をしよう〕 高齢者とゲームをしたり、合唱・合奏を披露したりする。 かかわった高齢者について振り返り、学習カードに記入する。</p> <p>〔交流会を振り返り、自分ができようことを考えよう〕 交流会での高齢者に対する自分や友達の思いやりの行動について発表し、学級全体で話し合う。話し合ったことを基に学習シートを書く。 ・しようと思ったけれども、実際にできなかったこと ・次回はこうしようと思うこと ・こんなことを学んだと思うこと ・これから自分がすること</p>	<p>高齢者福祉施設との交流について関心・意欲を高める。〔イ〕 高齢者の身体の状態、健康状態について児童に理解させる。〔イ〕</p> <p>交流会の目的をはっきりさせ、高齢者と一緒に楽しむ会となるように配慮する。 高齢者の送り迎えなど保護者の協力を得て、連携を図りながら活動を進める。 一人の高齢者とじっくりとかかわり、相手のよさを感じ取れるようにする。〔ウ〕 高齢者からも交流会についての感想を聞く機会を設ける。〔イ〕 体験後すぐに行い、高齢者に対して自分たちができたことを学級で共有する。 一人の高齢者について振り返り、様々な人の思いや考えがあることに気付くようにする。〔ウ〕 高齢者の立場で考え行動できたことを話し合わせ、確かめさせる。〔ウ〕 偏見や差別的な発言・記述については個別に指導する。〔ア〕</p>
特別学級活動	<p>〔みんなが喜ぶ祭りの店にしよう〕 「祭りの店」で、みんなに喜んでもらえる接客の仕方と店の工夫について話し合う。 ・どんな人が来客するのか。 ・来客する人に応じてどのように活動するのか。(高齢者、車いすで来る人、視覚に障害のある人、困っている人などの対応を考える。) 発表したことについて話し合う。 ・学級全体で考えた接客の仕方や店の工夫が相手にとって本当にうれしいことなのか。 話し合ったことを基に学習シートに書く</p>	<p>学級集団として、具体的な活動のなかで様々な人への対応を考え話し合わせ、自主的・実践的な態度をはぐくむ。〔ウ〕</p> <p>相手に対する「特別視」「同情」「優越感」に配慮しながら話し合いを進めさせる。〔オ〕</p>
(2) 学校行事	<p>〔祭りがやってきた〕 各学級での手作りの店を開き、活動する。 相手の気持ちを考え接客する。 ・校内の友達 ・高齢者 ・養護学校の友達 ・地域の人 ・保護者等 祭りについて個々に振り返り、学級全体で話し合う。</p>	<p>望ましい集団生活を目指して、自他ともに尊重し、学級や学校の生活の充実と向上を図り、健全な生活態度をはぐくむ。〔ウ〕</p>
日常の教育活動	<p>〔日常的な振り返り〕 個々の活動を日常的に振り返り、発表し合い、情報交換する。 掲示板上に貼り、互いの思いを共有し合う。</p>	<p>日常の学習や生活のなかで、人のためにできたことについて情報交換させるようにする。〔オ〕 情報交換を通して共に学び合うなかで、様々な偏見や差別に気付くようにする。〔ア〕</p>

研究のまとめ

1 研究の成果

本研究では、学校において実践されている社会貢献の活動に焦点をあて、人権教育を効果的に指導するための方策を追究した。本研究の成果として、児童・生徒に人権尊重の精神をより一層高めるためには、以下の点について工夫することが大切であることが明らかとなった。

第一は、視点を明確にするということである。社会貢献の活動を人権教育として位置付けるための3つの視点や、指導計画に位置付けた具体的な人権教育の視点により、教師は指導計画全体のなかで、児童・生徒に対してより一層人権尊重の精神を高めるための指導を行うことができた。

第二は、適切に振り返りの活動を行うことである。振り返りの活動は必要に応じて適宜行うことが必要であるとともに、他教科等との関連的な指導を図るなど、多様な機会と場を設けることが大切である。こうした振り返りの活動を通して、児童・生徒が自らの心の変容に気付くとともに、児童・生徒相互の思いや考えを共有することができた。

また、これらの指導を効果的に行うためには、様々な教師の配慮が必要であることも実践したなかから明らかとなった。とりわけ、児童・生徒の人権にかかわる気付きをはぐくむためには、教師の優れた人権感覚に基づく指導や、実際の行動につながるような支援をすることが必要である。

児童・生徒が社会貢献の活動を通して、様々な人と触れ合い、人権を意識することは、同和問題をはじめ様々な人権課題に対する正しい理解と認識につながるものと考えられる。

2 今後の課題

本研究で追究した人権教育を効果的に指導する方策について、今後、他校種における実践事例の展開により検証し、人権尊重の精神を高めるための指導の方策を充実させることが必要である。

また、日常生活のなかから、人権教育の視点を踏まえた学習を展開するためには、これまで以上に教師の人権感覚の向上や同和問題をはじめ様々な人権課題についての正しい理解と認識が必要である。したがって、今後も、東京都教職員研修センターにおいて、選択課題研修等における人権教育を一層推進するとともに、各学校における校内研修においても、人権教育についての取組みを推進する必要がある。